

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金受領株主 確定日	3月31日	上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)
中間配当金受領株主 確定日	9月30日	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sra-hd.co.jp/e-koukoku/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		

【お知らせ】

1. 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 配当金の口座振込指定のお手続きは、「配当金振込指定書」を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしておりました「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。口座振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

3. 配当金領収書について

本年から、「配当金領収書」による配当金の支払い窓口を「ゆうちょ銀行」へ変更いたしました。配当金の受取りにつきましては、最寄りの「ゆうちょ銀行」または「郵便局の貯金窓口」をご利用ください。

株主優待制度のご案内

1	優待内容	株主の皆様の日頃からのご支援に対し感謝の気持ちを込めまして、年1回、「おこめギフト券」を株主優待として贈呈いたします。
		優待の基準 株式保有数 100株以上=3枚
2	対象株主	毎年9月30日現在の株主名簿に記載された1単元（100株）以上保有の株主の方を対象といたします。
3	贈呈期間	毎年11月下旬に発送を予定しております。



SRA GROUP 株式会社 **SRAホールディングス**

<http://www.sra-hd.co.jp/>

本社：〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-32-8 TEL:03-5979-2666



2009年3月期 株主通信

2008年4月1日～2009年3月31日

株式会社SRAホールディングス

株主の皆様へ

2009年3月期は、世界的な金融危機を契機とした世界同時不況を背景に、国内景気が急速に悪化しました。

IT投資抑制等により受注環境も悪化するなか、当年度の業績は、次のとおりとなりました。

○前年度に比べ減収減益

○営業利益率 (9.1%) 経常利益率 (9.3%) は、過去最高益となった前年度の水準を維持

○収益性向上に重点的に取り組んだ結果、粗利益率は20.0%と前年度 (19.4%) より向上

配当につきましては、当初予想どおり1株当たり40円とし、来年度も、資産・資本の効率的運用という観点から、成長性確保に向けた投資に取り組むとともに、株主様への利益還元を優先し、1株当たり40円を維持する予定です。

今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



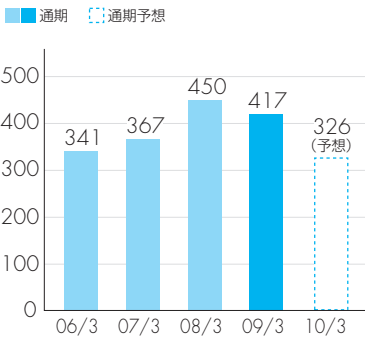
代表取締役社長 鹿馬 亨

2009年6月

連結財務ハイライト

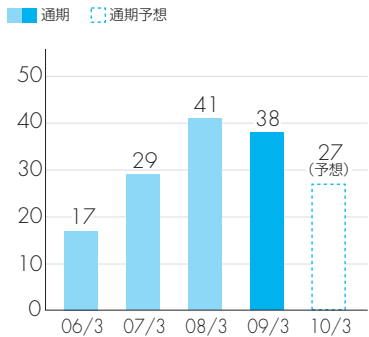
売上高

(単位:億円)



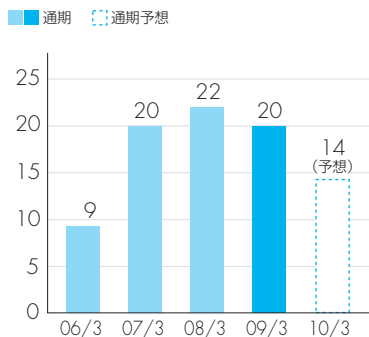
経常利益

(単位:億円)



当期純利益

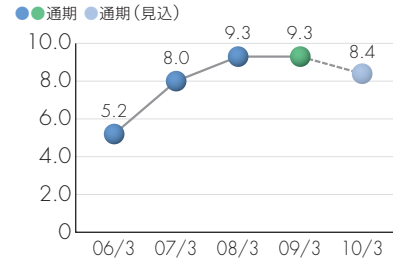
(単位:億円)



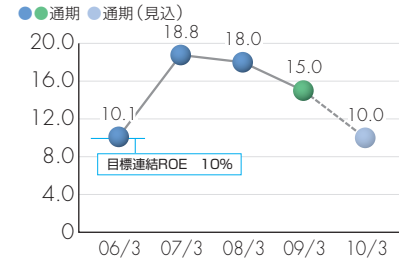
技術センター売却益9億円を計上しています

(注) 1. 2010年3月期予想は、2009年5月に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高および利益は当該予想と異なる結果となる可能性があります。
 (注) 2. 2007年3月期以前は株式会社SRAの連結実績。

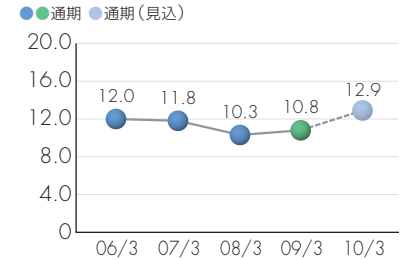
連結売上高経常利益率 (単位:%)



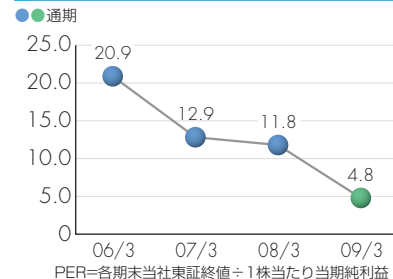
連結自己資本当期純利益率 (ROE) (単位:%)



連結販管費比率 (単位:%)

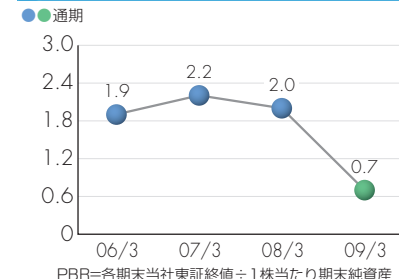


PER (株価収益率) (単位:倍)



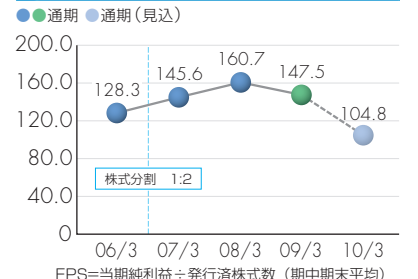
PER=各期末当社東証終値÷1株当たり当期純利益
 ※2007年3月期以前は株式会社SRAの連結実績。

PBR (株価純資産倍率) (単位:倍)



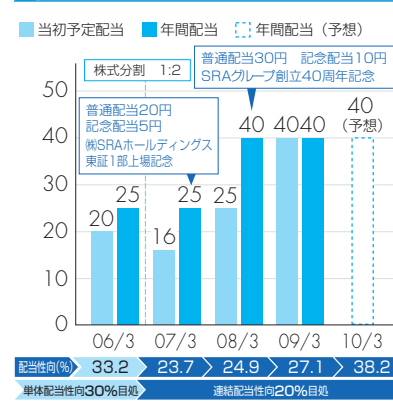
PBR=各期末当社東証終値÷1株当たり期末純資産

EPS (1株当たり当期純利益) (単位:円)



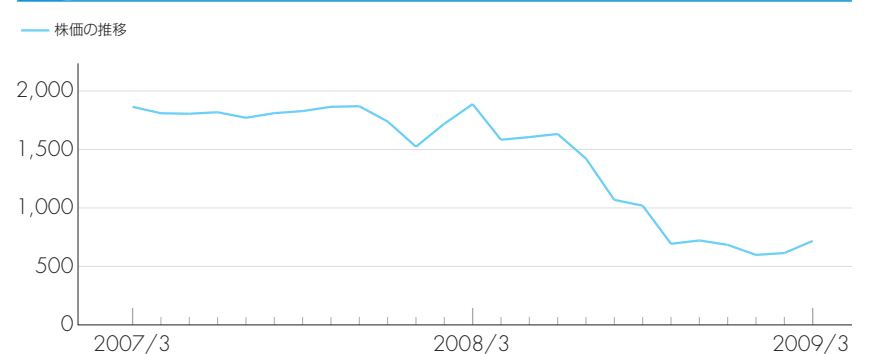
EPS=当期純利益÷発行済株式数 (期中期末平均)

1株当たり配当金 (単位:円)



配当性向(%) 33.2 > 23.7 > 24.9 > 27.1 > 38.2
 単体配当性向30%目標 連結配当性向20%目標

株価チャート (単位:円)



※2010年3月期予想は、2009年5月に発表したものです。業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。したがって、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により、実際の売上高、利益、各指標および配当は当該予想と異なる結果となる可能性があります。

成長性と収益性の向上のため、 構造改革を進めます。

01

当年度の急速な経営環境の悪化に対して、どのような施策を取られたのか教えてください。

SRAグループでは、当年度の業績目標達成に向けて、受注・売上の確保と収益性向上に努めるとともに、利益を底上げする緊急施策として、販管費等の経費削減にも注力しました。

当年度の業績は経営環境の悪化により、残念ながら前年度に比べて減収減益となりました。しかしながら、昨年11月に公表した業績予想の修正値を上回り、売上高に対する営業利益率(9.1%)、経常利益率(9.3%)は、過去最高益を計上した前年度実績を維持し、粗利益率は、構造改革の効果もあり、20.0%と前年度より0.6%向上しました。従いまして、「グループの成長性と収益性の向上」は持続していると認識しています。

<災い転じて福となす>とすべく、厳しい環境のもと『原価管理体制の確立による粗利益率の向上』、『確固たる顧客基盤に基づく安定的な受注体制の確立』、『コスト構造の抜本的見直し』という構造改革に取り組んでまいりました。

今後も引き続き構造改革を積極的に進めてまいります。



02

期末配当40円を維持するそうですが、配当についての考え方を聞かせてください。

前年度は1株当たり配当金を普通配当30円とSRAグループ創立40周年記念配当10円の合計40円としました。当年度は、当初予想どおり普通配当40円とします。

原価管理体制の確立により、 粗利益率向上を図ります。

来年度につきまして、当社は「連結配当性向20%を目処とする」配当方針を基本としていますが、業績の落ち込みは一過性であり、経営環境が好転すれば従来の成長路線に戻るとの認識に基づき、1株当たり普通配当40円の維持を予定しています。

<来年度の利益配分の考え方>

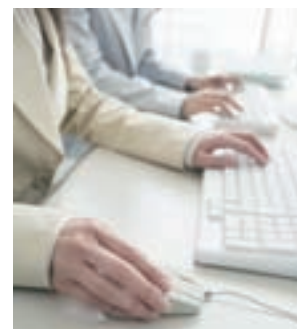
- 「連結ROE2桁の維持・確保」を経営目標のひとつとしており、株主資本の効率的運用を重視した経営をめざす。
- グループの成長性確保に向けた、本業における投資(M&A等の投資案件)について、積極的に取り組む。
- 「株主への利益還元」については、株主資本の効率的運用という観点からも常に検討を重ねる。

以上より、潤沢な手元流動性を保有している現状を鑑み、資産・資本の効率的運用に資するため「株主様への利益還元」の優先度が高いと判断しました。

03

来期(2010年3月期)の収益計画はどのように策定したのですか。

厳しい経済情勢が続くなか、事業環境の回復時期が不透明なため、収益計画は現在の事業環境が続くものとして策定しました。主要子会社である株式会社SRAにおいては、主要顧客である製造業、金融機関のIT投資の規模縮小・執行時期の不透明感等から売上高48億円(前年度比21.1%)の減少を想定し、株式会社AITでは、機器販売の大型案件の受注活動は継続しているものの、計画策定時には受注が



見込めなかったため売上高38億円(前年度比33.9%)の減少を想定した結果、減収減益の計画となっています。とはいえ、いずれも5月時点までの売上高は計画ほどには落ち込んでいません。

環境が好転した時に業績を飛躍的に向上させるためにも、当年度から取り組んでいる構造改革を継続して推進してまいります。

04

株式会社SJホールディングスとの業務・資本提携の目的は何ですか。

2009年2月に株式会社SJホールディングスと業務・資本提携を結びました(P10参照)。

現在、中国では、経済政策が外需から内需中心の成長へと転換し、インフラ(社会基盤)の整備に重点投資されようとしています。世界経済のなかで、ますますその存在感を増す

であろう中国における営業基盤を強化し、市場を開拓することは、グローバルな成長をめざす当社にとって、非常に重要であると考えます。SJグループの中国販売部門へのSRAグループの技術および製品の提供を通じて、急成長する中国市場開拓の足がかりを築くことにより、従来の欧米に加え、中国さらにはアジア市場を睨んだ海外展開の充実を図ることができます。

有望な中国市場に、効率よく進出し、 新たな収益機会を創造します。

SRAグループは、中国の大学を中心に、SRAが開発した大学向け総合文教ソリューション(製品名『UniVision』)の営業活動を開始する予定です。また、SJグループの中国子会社の既存主力顧客である中国の電力会社に対し、SRAが日本で培ってきた電力会社向けシステムのノウハウを提供することで、システム開発事業の拡大をめざします。

さらに、中国に進出しているSRAグループの既存顧客に対して、両グループが共同で中国におけるサービス提供を開始することも計画しています。



今後も、従来からの欧米ビジネスの拡充を図るとともに、中国・インド・シンガポールをはじめとする、アジアにおけるビジネス展開のための布石も打ってまいります。

SRAグループの事業内容

どこのメーカー/ユーザーにも属さない「独立系」だから・・・

お客様にとって最適な選択肢を提供できる！

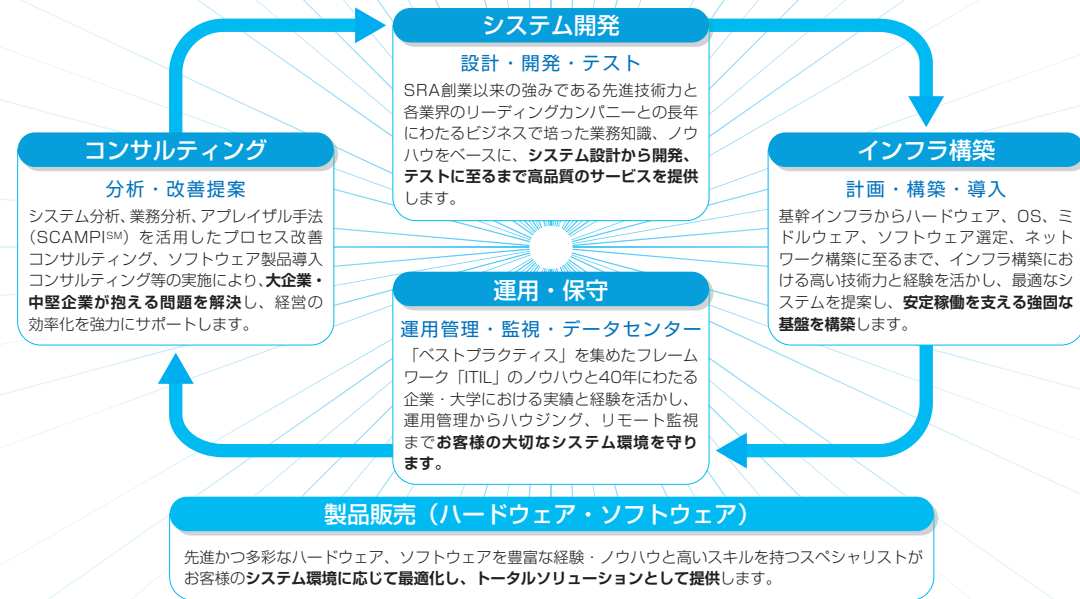
SRAグループのソフトウェア業界における位置づけ

「独立系」のメリットを活かし、ハードウェアでもソフトウェアでも、特定のユーザーやメーカーに偏ることなく、**中立な立場で真に最適な選択肢を提供**することができます。これは、お客様にとっての最大のメリットであり、私たちSRAグループの存在価値であると考えています。



システム・ライフサイクル


SRAグループは、コンサルティングからシステム開発、インフラ構築、運用・保守に至るITシステムの**ライフサイクル全般**において、高水準のサービス・製品を提供しています。



SRAグループの3つの強み

SRAグループは3つの強みを活かして次のステージでの展開をめざします。

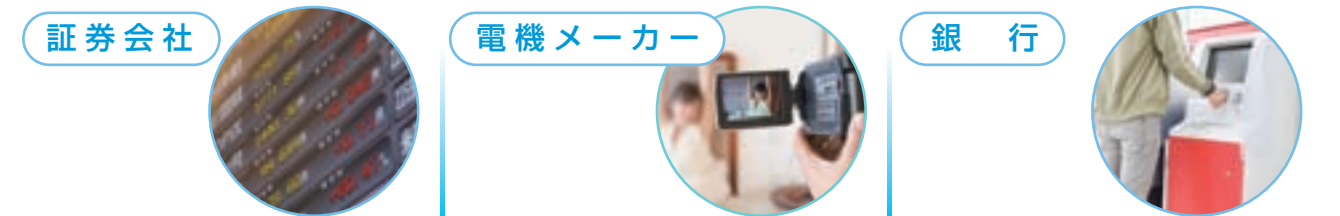
3つの強みを活かしてITに求められる「スピード」、「クオリティ」、「コスト」を満たすシステムを提供し、お客様の競争力強化、成長および収益の向上に貢献するよう努めています。



- 技術先進性**
創業以来、「**技術のSRA**」としての定評があります。最近では、注目度の高いオープンソースソフトウェア、SOA、SaaSへの展開においても技術優位性を確立するとともに、先進技術を活かした新しいビジネスの創出、新規事業の立ち上げにも取り組み、着実にその成果をあげています。また、品質および生産性の向上にも先進技術を活用しています。
- グローバル・リーチ**
業界に先駆けて海外拠点を設け、アメリカ、ヨーロッパ等の海外ネットワークにより、日系グローバル企業・現地企業のお客様に対して、**高付加価値のグローバルサポートサービスを提供**しています。また、収益性の向上を目的に、インド・中国のオフショア開発を積極的に推進しています。さらに、インド・中国/アジアをビジネス市場としても捉え、ビジネス展開を図っていきます。
- 優良顧客基盤**
金融、製造、流通等の**各業界のリーディングカンパニーを始めとする大企業、中堅企業をお客様とし**、継続的・安定的なビジネスを展開しています。また、IT技術を駆使している新規の優良なお客様に対しても、案件マネージメント強化と顧客セグメント別マーケティングを実践し、ビジネスを拡大しています。

SRAグループの技術

皆様の身近なところにもSRAグループの様々な先端技術が活用されています。



動かしているのは、SRAグループの技術です。

株式をインターネットで売買する時代。高い信頼性が求められる証券会社のオンライン・トレードシステム。大手証券会社のシステムにも、SRAグループの技術力とノウハウが活かされています。

高機能の新製品が次々と発売される家電分野。ビデオカメラ、テレビ、DVDプレーヤー、ゲーム機器・・・それらのシステムの中核部分にもSRAグループの先進技術力が活かされています。

正確性、安定性、高いセキュリティが求められる銀行のATM。大手都市銀行のATMシステムにもSRAグループの高い技術力と金融分野の豊富な業務ノウハウが活かされています。

グローバル・リーチ

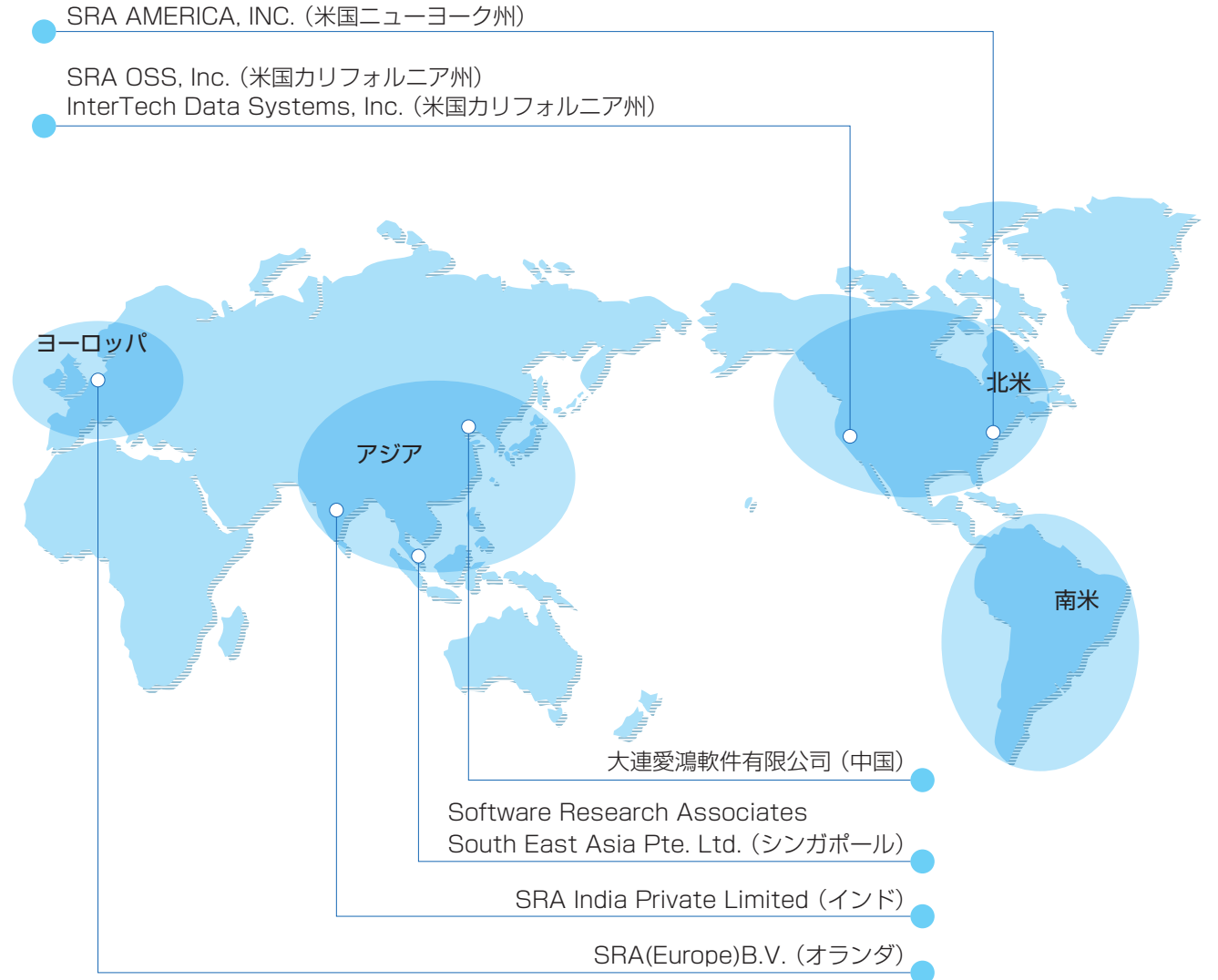
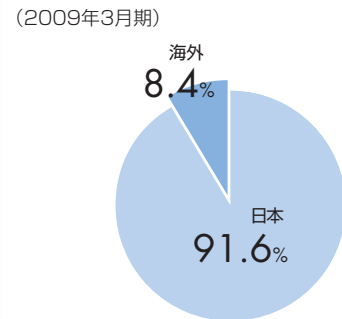
SRA グループは国内・海外のネットワークを活用し
グループ・シナジーのさらなる強化を図ります。

所在地別セグメント情報

(2009年3月期) (単位：百万円)

所在地別セグメント	売上高
海外	3,516
日本	38,260

所在地別売上高構成比



事業別セグメント

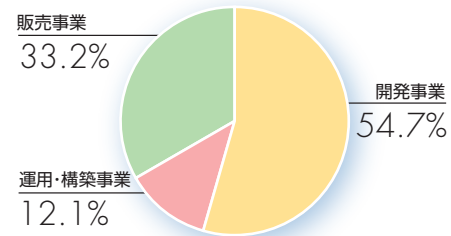
事業別セグメント情報

事業セグメント別売上高の推移 (単位: 百万円)

事業セグメント	項目	2008年3月期	2009年3月期
		前期	当期
開発事業	売上高	24,205	22,837
	営業利益	4,111	3,926
運用・構築事業	売上高	4,664	5,078
	営業利益	1,128	1,279
販売事業	売上高	16,189	13,861
	営業利益	1,293	1,110

(注) 営業利益は、セグメント間の内部取引を含んでおり、配賦不能な営業費用を含んでおりません。

売上高構成比 (単位: 百万円) (2009年3月期)



開発事業

当事業を取り巻く環境は大変厳しく、証券業をはじめとする金融機関および製造業向けの受注が減少した結果、売上高は228億37百万円（前年度比5.6%減）となりました。

運用・構築事業

学校関連の受注は横ばいだったものの、企業向けの受注が増加しました。また、運用ビジネスが堅調に推移したことに加え、利益率の高いネットワーク構築ビジネスに注力した結果、売上高は50億78百万円（前年度比8.9%増）となりました。

販売事業

株式会社SRAの販売が低調だったことに加え、株式会社AITにおいて、金融機関向け機器販売の大型案件が減少したことにより、売上高は138億61百万円（前年度比14.4%減）となりました。

S R A N E W S

株式会社SJホールディングスとの業務・資本提携について

2009年2月に当社とSJホールディングス（以下「SJHD」）は、両社のグループ会社の保有する人材、技術・ノウハウおよび商品等の経営資源を相互利用することで補完しながら、両社の収益力を強化するとともに、有望な中国市場に効率よく進出し、新たな企業価値を創造することを目的として、業務・資本提携契約を締結いたしました。SJHDは中国におけるシステム開発および中国市場への販路開拓において同業他社に比べ先行しています。

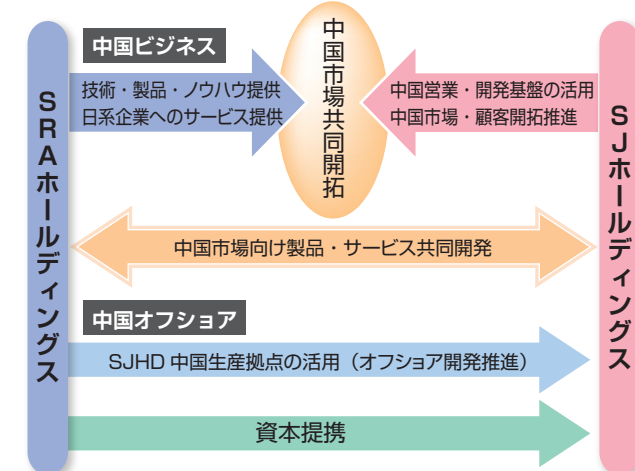
SRAグループは、オフショア開発の拠点としてSJグループを活用していきます。また、SJグループの中国販売部門へのSRAグループの技術および製品の提供を通じて、急成長する中国市場開拓の足がかりを築くことにより、従来の欧米に加え、中国さらにはアジア市場を睨んだ海外展開の充実を図っていきます。こうした業務面での協力関係をより実効性のあるものとするため、当社はSJHDの株式27,500株（発行済株式総数の5.5%）を取得いたしました。



株式会社 SJホールディングス

概	要
商号	株式会社SJホールディングス
事業内容	情報サービス業
設立年月日	平成元年7月14日
本店所在地	東京都品川区東品川四丁目12番8号
代表者	代表取締役会長兼社長 李 堅
資本金	1,028 百万円
発行済株式総数	498,799 株

業務・資本提携の概要



連結財務諸表

●連結貸借対照表

	当期末	前期末
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,335	9,351
受取手形及び売掛金	7,613	8,940
有価証券	1,503	2,003
たな卸資産	1,130	1,740
繰延税金資産	461	471
その他	591	657
貸倒引当金	△ 37	△ 22
流動資産合計	21,599	23,143
固定資産		
有形固定資産		
建物	97	103
機械装置及び運搬具	71	91
土地	0	0
その他	33	32
有形固定資産合計	202	228
無形固定資産		
ソフトウェア	396	376
その他	32	64
無形固定資産合計	429	440
投資その他の資産		
投資有価証券	1,314	1,510
繰延税金資産	1,677	1,318
差入保証金	531	553
長期性預金	400	400
その他	482	489
貸倒引当金	△ 10	△ 10
投資損失引当金	△ 107	△ 107
投資その他の資産合計	4,287	4,155
固定資産合計	4,920	4,824
資産合計	26,519	27,967

(単位：百万円)

	当期末	前期末
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,702	3,502
短期借入金	2,368	2,576
一年内償還予定社債	—	300
未払法人税等	743	1,640
未払消費税等	414	392
未払費用	658	963
賞与引当金	568	653
役員賞与引当金	0	74
その他	542	798
流動負債合計	7,999	10,901
固定負債		
社債	300	—
長期借入金	—	10
退職給付引当金	3,620	3,412
役員退職慰労引当金	422	400
負のれん	13	19
固定負債合計	4,356	3,842
負債合計	12,355	14,743
純資産の部		
株主資本	14,107	12,654
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	4,483	4,519
利益剰余金	9,518	8,029
自己株式	△ 894	△ 894
評価・換算差額等	△ 61	495
その他有価証券評価差額金	60	480
為替換算調整勘定	△ 121	15
新株予約権	83	52
少数株主持分	34	21
純資産合計	14,164	13,224
負債・純資産合計	26,519	27,967

●連結損益計算書

	当期	前期
	平成20年4月 1日から平成21年3月31日まで	平成19年4月 1日から平成20年3月31日まで
売上高	41,777	45,058
売上原価	33,430	36,311
売上総利益	8,346	8,747
販売費及び一般管理費	4,525	4,645
営業利益	3,820	4,102
営業外収益	153	154
営業外費用	79	75
経常利益	3,894	4,181
特別利益	—	21
特別損失	110	63
税金等調整前当期純利益	3,784	4,139
法人税、住民税及び事業税	1,810	2,123
法人税等調整額	△ 81	△ 217
少数株主利益	13	9
当期純利益	2,041	2,224

(単位：百万円)

●連結キャッシュ・フロー計算書

	当期	前期
	平成20年4月 1日から平成21年3月31日まで	平成19年4月 1日から平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,194	2,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 852	△ 434
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 772	△ 238
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 82	△ 6
現金及び現金同等物の増減額	487	1,346
現金及び現金同等物の期首残高	11,265	9,919
現金及び現金同等物の期末残高	11,753	11,265

(単位：百万円)

●連結株主資本等変動計算書 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
平成20年3月31日残高	1,000	4,519	8,029	△ 894	12,654	480	15	495	52	21	13,224
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 553		△ 553			—			△ 553
当期純利益			2,041		2,041			—			2,041
連結子会社からの自己株式の取得		△ 35			△ 35			—			△ 35
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額 (純額)					—	△ 420	△ 137	△ 557	31	13	△ 512
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 35	1,488	—	1,452	△ 420	△ 137	△ 557	31	13	939
平成21年3月31日残高	1,000	4,483	9,518	△ 894	14,107	60	△ 121	△ 61	83	34	14,164

株式会社SRA（個別）

●貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当期末	前期末
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
資産の部	19,713	22,921
流動資産	15,118	17,926
現金及び預金	7,295	6,576
受取手形及び売掛金	4,407	5,886
有価証券	1,503	2,003
関係会社株式	850	2,657
たな卸資産	428	451
その他	664	369
貸倒引当金	△ 31	△ 19
固定資産	4,594	4,994
有形固定資産	133	151
無形固定資産	318	260
投資その他の資産	4,143	4,583
投資有価証券	632	1,336
関係会社株式	1,204	1,226
その他	2,506	2,171
貸倒引当金	△ 10	△ 10
投資損失引当金	△ 190	△ 140
資産合計	19,713	22,921
負債の部	8,403	10,712
流動負債	4,721	7,237
買掛金	1,192	2,093
短期借入金	1,764	1,770
その他	1,765	3,373
固定負債	3,682	3,475
長期借入金	-	10
退職給付引当金	3,276	3,077
役員退職慰労引当金	406	387
純資産の部	11,309	12,208
株主資本	11,172	10,693
資本金	2,640	2,640
資本剰余金	2,881	2,881
利益剰余金	5,650	5,172
評価・換算差額等	137	1,515
その他有価証券評価差額金	137	1,515
負債・純資産合計	19,713	22,921

●損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当期	前期
	平成20年4月 1日から 平成21年3月31日まで	平成19年4月 1日から 平成20年3月31日まで
売上高	23,093	25,711
売上原価	17,756	20,010
売上総利益	5,336	5,700
販売費及び一般管理費	2,831	2,751
営業利益	2,504	2,949
営業外収益	338	276
営業外費用	32	35
経常利益	2,810	3,190
特別利益	201	7
特別損失	180	80
税引前当期純利益	2,830	3,118
法人税、住民税及び事業税	1,227	1,427
法人税等調整額	△ 55	△ 193
当期純利益	1,658	1,884

株式の状況・会社概要

●株式の状況

（平成21年3月31日現在）

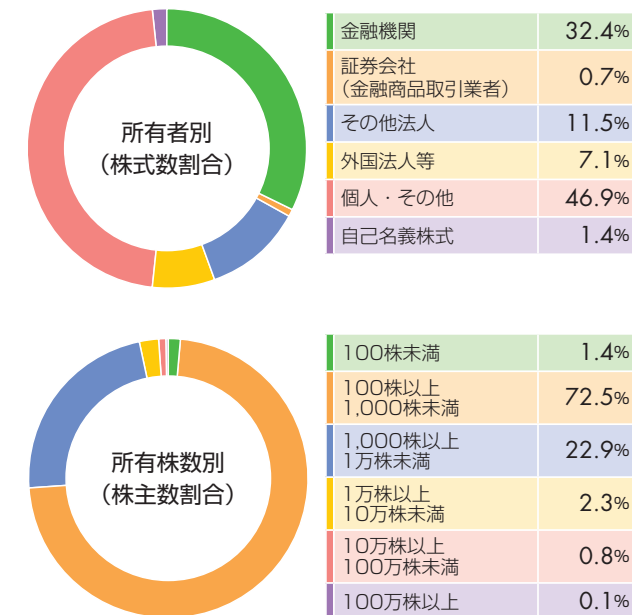
発行可能株式総数	60,960,000株
発行済株式総数	15,240,000株
株主数	3,196名

●大株主

株主名	持株数（千株）	出資比率（%）
丸森隆吾	2,189	14.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,311	8.6
株式会社SRA	1,190	7.8
SRAホールディングス社員持株会	572	3.7
第一生命保険相互会社	564	3.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	560	3.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	510	3.3

●株式分布状況

（平成21年3月31日現在）



●会社概要

（平成21年3月31日現在）

商号	株式会社SRAホールディングス SRA Holdings, Inc.
本店所在地	東京都豊島区南池袋二丁目32番8号
設立年月日	平成3年1月28日
資本金	10億円
主要な事業内容	システムの開発事業、運用・構築事業 および販売事業を営む事業会社の統括 管理
従業員数	1,721名（連結）

●役員

（平成21年6月25日現在）

代表取締役会長	丸森隆吾
代表取締役社長	鹿島亨
常務取締役	谷野寛
常務取締役	富田博
常勤監査役	室伏仁
常勤監査役	小川浩
監査役	櫻井通晴
監査役	竹谷智行
会計監査人	太陽ASG有限責任監査法人